

# JAICOH NEWS LETTER

NO : 57 2009年3月発行



歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

事務局：〒341-0003 埼玉県三郷市彦成 3-86 Tel&Fax：048-957-2286

発行：深井穂博 編集：榎崎正子、梁瀬智子

## 第19回歯科保健医療国際協力協議会 学術大会特集 その2

### 2007 ケニアスタディツアー・スリランカスタディツアーの報告

北海道大学 IDAH:冒険歯科部 6年/中澤 誠多朗

今年の発表では、我々が2007年夏に行った2回のスタディツアーについて報告させていただきました。8月のケニアツアーでは5年生が中心となって、ナイロビ大学歯学部のほか、HIV/AIDS対策に取り組む現地のJICA支部やケニア保健省を訪問しました。

ナイロビ大学歯学部は4年制で、学生が皆スーツを着ているというこれまでにない雰囲気の中、病院・実習の見学や講義への参加をさせていただきました。

JICA 東アフリカ支部では、現地の日本人スタッフの方がHIV/AIDS感染の概況と政策の変遷についてお話くださり、感染率は下がっているものの地域間の差が大きくなっていることなどについて理解することができました。

ケニア保健省では保健行政システムと保健セクター開発について解説していただき、保健サービスと保健行政のかかわり、海外からの支援の現状と問題点について学ぶことができました。



JICA 東アフリカ支部訪問



マースポタ・シヤンバラングムワ小学校にて

9月中旬に行われたスリランカツアーは、4年生・3年生の3人が参加し、前年に引き続いてパラデニヤ

大学歯学部、小学校および高校の日本語クラスを訪問し、学生間の交流が主な内容でした。

ペラデニヤ大学では、意識の高いスリランカの学生に圧倒された面もあったものの、プレゼンテーションとフリートークで互いの理解を深めることができました。

学生の意識の違いについては、後に高校、小学校の訪問を行うにつれて明らかになった、小数のエリートを選別するスリランカの教育システムに起因する面もあるのでは、という考察が得られました。

また、小学校では生徒 72 人に対しブラッシング指導を行うという初めての試みがあり、現地の関係者の協力を得てシンハラ語で行われた指導は、非常に和気藹々としたムードで進めることができました。

2007 年の 2 つのツアーの成果は、2008 年のバングラデシュツアーに引き継がれ、これまでにない成果を挙げる事ができたと自負しておりますが、それについては今年の JAICOH 総会で後輩達が発表することになるかと思えます。

#### <JAICOH 学術大会に参加しての感想>

地方に住む自分にとって、歯科の国際保健医療に携わる先生方、学生達が集う JAICOH はたいへん貴重な場でした。思い返してみると、学生として参加した JAICOH は数多くのことを学んだだけでなく、非常に楽しい経験でした。今後はより多くの後輩達が JAICOH の場に参加することを希望し、またその為に準備をして参りたいと存じます。

#### <プロフィール>

中澤誠多朗

北海道大学歯学部 6 年生 青森県弘前市出身。2003 年より IDAH の活動に参加。現在、某国家試験予備校の過去問題集で試験勉強中。やっぱり Answer ですよね。

## 日大松戸歯学部 国際保健部の活動について

日本大学松戸歯学部 国際保健部 須田佳菜絵

私たち国際保健部は 2000 年に学生を中心として設立され、設立当時より様々な団体、先生方にご支援を受けながら学生による国際医療に関する活動を続けています。

また、最近では他学部との交流も広げています。

ボランティア活動やスタディーツアー、海外の歯科学生との交流、勉強会などを企画実施し、自分自身で実際に体験することで歯科医療における将来の国際協力のありかたについて探り、歯科学生として今、何ができるのかを模索、実行することを目的としています。

活動は南太平洋医療隊のトンガプロジェクト参加、歯科医学教育国際支援機構（OISDE）主催スタディーツアー参加、シンポジウム、学会への参加、イベント等でのボランティア活動、新入生歓迎会、新年会 等です。

活動内容はブラッシング指導による口腔内環境の改善、フッ化物洗口による虫歯予防保健教育活動、歯科診察、歯科診療の見学等です。

これらの活動は、歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）、南太平洋医療隊、歯科医学教育国際機構（OISDE）、財団法人富徳会、地球の保健室の皆様のご協力を頂きながら行わせていただいております。

昨年の JAICOH 学術大会では我々松戸歯学部 国際保健部の活動について発表させていただきました。

私自身、国際保健部の活動を通し、トンガ、カンボジアでのスタディーツアーなどに参加し、多くの貴重な体験をすることができました。その結果、歯科医療の技術や知識の乏しい我々学生は、実情を体験し、知り得た情報に対しどのように対応していくかという自己解決能力の重要性、さらに今自分がいる環境とはまったく違う生活を体験することで、自分のおかれている状況が本当に恵まれていることを活動を通し学ぶことができました。また国際協力に従事する団体の皆様と関わることができ、従事する人のそれに注ぐ情熱を肌で感じ、学校の講義で行われる机上的あるいは教科書的なものでは得られないものを体験することができました。

我々の今後の課題としては、もっと学生独自の活動を強化していく必要があると感じます。現在は各団体の協力を依存しすぎる感が否めず、今後「今できること」「学生だからできること」を考えた活動をしていくべきではないかと思います。また、国際社会において言語（特に英語）ができないことは致命的であり、今後改善すべき点の一つです。

国際保健部は個人では今まで活動に参加できなかった、したくてもどうしてよいかわからなかった学生に対し、国際医療に携わることのできる場を提供する役割を果たしてこれたと思います。今後も一人でも多くの学生に国際医療に関心を持つよう、また今の生活に感謝の気持ちが持てるよう活動をつづけていきたいと思います。



<プロフィール>

日本大学松戸歯学部国際保健部部长、4年在学中。

<学術大会参加しての感想>

今回参加させていただき、学生国際ボランティア活動について、先人である様々な先生方の意見を聞くことができ、また、同様の活動をしている学生団体の考えや活動内容について知ることができ、今後の活動についてとても参考になりました。

## 地域歯科保健開発とテキストブックの出版

ネパール歯科医療協力会 矢野裕子

私たちは、1989年より、ネパールで、国際医療保健活動を行っています。私たちは地域保健活動を行うにあたり、教材作成、特にガイドブックやテキストなどを作り、試行的に使っては、補足、改訂をしてきました。今回はそのテキストブックを現地で出版するにいたった過程とその内容について、報告します。主な対象地域はネパール王国首都近郊ラリトプル郡の8つの農村です。

## 1.地域保健開発、テキスト作成の過程

テキスト作成は、地域での医療保健活動の展開とともに始まりました。1994年、Thecho村で人材育成としての口腔保健専門家養成コースが開始されました。これは、現地の人々に健康教育などの保健活動を展開してもらうため口腔保健知識を教授するプログラムです。使用したテキストは、英語ネパール語併記のテキストで、口腔解剖、口腔疾患とその予防法などについて記しています。同年う蝕予防を目的に学校でフッ化物洗口が始まり、薬剤の調整法、洗口法を記したフッ化物洗口テキストを作成しました。現地の教師の養成が進むと、私たちの活動期間だけでなく、年間を通じた健康教育を実施するためには、より詳細な口腔解剖や、う蝕の原因、歯磨き法などについて書かれたテキストが必要であることがわかってきました。そこで1997年教員向けのテキストを作成しました。1999年には口腔内検診トレーニングが実施され、検診マニュアルを作成しました。

## 2.テキスト出版

以上で紹介したテキストは、毎年改訂し、当初必要数を日本でコピーし使用していました。しかし、活動地域や対象校の増加に伴い、コピーでは追いつかなくなってきました。2002年ネパールで3部作のテキストとして出版しました。その後、現地からの要請で、ネパール語併記のものに改訂したものを出版しました。

### まとめ

途上国での保健活動には、地域に根ざした教材が必要であると考えられます。テキストに至るまで何度も改訂し、これでよいかという時期まで約8年(1994-2002)かかりました。現地での印刷は、コスト削減化と現地の人々による改訂を可能とすると考えられます。今後の展望は、現地の人々が、変化する社会状況に応じて彼らの判断でテキストの改訂してゆくことです。

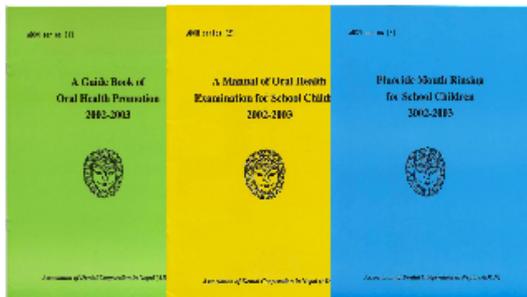
## <プロフィール>

矢野裕子 (やのひろこ)

1986 九州歯科大学卒業

1991 ネパール歯科医療協力会に参加

以後8回ネパールでの医療活動に参加



## ネパール歯科医療協力会の使用機材の変遷

ネパール歯科医療協力会 根木規代子

国際保健の現場で使用する医療機材は入手、搬送、消毒や安全保管など解決すべき問題は多くあります。時にはプロジェクトそのものに影響をおよぼします。今回は1989年からネパール歯科医療協力会が行ってきた活動を通じ使用機材の変遷について報告させていただきました。

毎年プロジェクトに必要な機材や補充消耗品などは前年度のプロジェクト評価を参考にリストアップします。活動開始当初からこれまでの間に、多い時（1998年）で診療機材だけで445品目、健康教育機材や一般機材と合わせて830品目を保管していました。2008年のプロジェクトである21次隊では、歯科診療機材が149品目、学校歯科保健や母子保健など健康教育機材が49品目で、これに一般機材103品目を合わせて合計301品目でした。1998年の半数以下になっています。

これは歯科診療中心のメディカルケアから歯科疾患の予防を目的としたヘルスケアへと転換し、不要な機材を積極的に減らし、現地調達できるものはできるだけ現地に委ねた戦略的要素が大きいです。また、資源や時間的な制約がある現地での歯科保健活動においては、現地住民のニーズに関わらず、診療内容を簡素化せざるを得ないことが背景にあると考えられます。

今後、現地での歯科保健医療活動を持続的な活動にするためには、できるだけ使用機材類を現地調達することが原則となります。しかし、不安定な政情や歯科医療の普及が遅れている現地にあっては、機材の入手が不確実なこともあり今後の活動の展開と合わせて検討していく必要があります。また、これまでの活動で保管してきた機材類を、どのように管理、運営していくかも現地の歯科医師や口腔保健専門家との連携を図っていくことが重要になります。

#### <学術大会参加しての感想>

これまで私はネパール歯科医療協力会の活動において主に診療活動に携わってきました。活動を通して、特に感じるのは現場の大切さです。やってみなければ、何もわかりません。だからこそ、JAICOHを通し様々の国や地域で行われている歯科保健活動の情報交換を行い、援助の可能性を拓けることは、歯科保健全体を充実させることにもつながります。また、学術大会に参加されていた多くの学生の方々にも機会があればぜひ現地に赴いて、肌で体験してもらいたいと思います。そのことは今後の国際歯科保健活動を展開していく上でも、歯科界にとっても大きな資源となり得ると期待します。



#### <プロフィール>

根木規予子（ねぎきよこ）静岡県出身。歯科衛生士。2005年日本福祉大学卒。ネパール歯科医療協力会17～21次隊参加。

## 途上国での歯科医療協力問題点と展望（過去のデータ分析で診療内容の変化など）

ネパール歯科医療協力会 小原真和

途上国では貧困が蔓延しており、中でも医療に対するニーズは高く、多くの国際医療協力が行われている。このような背景に対し我々が行ってきたネパール王国における国際歯科医療協力は、20回以上の派遣隊を数え活動内容および対象患者層も大きく変化してきている。そこで、診療活動の評価を目的として1998年

(12次派遣隊)と2007年(21次派遣隊)におけるテチョー村での診療対象患者について比較検討を行った。

1998年(12次派遣隊)および2007年(21次派遣隊)の診療患者に関して、(1)総数(2)男女比(3)年齢構成(4)受診歴(5)主訴(6)処置内容の各項目について比較検討を行った。

【結果および考察】(1)診療患者数：1998年が437人であり、2007年では248人であった。1998年と2007年では、全活動における診療活動と保健活動の比率が異なっていることが原因と考えられる。

(2)男女比：1998年が3:7、2007年では4:6であり、いずれも女性が多い傾向にあった。診療活動は平日昼間に行っており、やはり仕事等の都合上男性は来院しにくいのではないかと考えられる。

(3)年齢構成：1998年では比率の多い順から10歳代、20歳代、9歳以下であり、2007年では20歳代、30歳代、40歳代、の順であった。1998年から2007年では、来院する患者の年齢層がやや上がっていた。

(4)受診歴：1998年から2007年では、初めて来院する患者の比率の減少がみられた。2007年の結果において「不明」が12%あることから明確には言えないが、活動が長期にわたっているため複数回受診の患者が増加してきているためと考えられる。

(5)主訴：1998年では比率の多い順から抜歯、歯石除去、充填処置であり、2007年では抜歯、歯痛、充填処置の順であった。

(6)処置内容：1998年では比率の多い順から抜歯、歯石除去、充填処置(グラスアイオノマーセメント)であり、2007年では抜歯、充填処置(アマルガム)、歯石除去の順であった。充填処置の内容がグラスアイオノマーセメントからアマルガムに変化している。

#### 【まとめ】

1998年と2007年におけるテチョー村での診療患者について比較検討を行った。その結果、男女比、年齢層、過去の受診歴に若干の変化が見られ患者層の変化が推察された。また、主訴および治療内容において「歯痛」および「アマルガム充填処置」の増加が認められ、う蝕の増加など疾病構造の変化が疑われた。今回の変化は、現地での食生活の変化や歯科保健に関する教育の浸透などの要素が相互に影響して生じているのも予想され、今後はより一層保健活動を推進するとともに各要素の関連性なども検索してゆく必要があると考えられる。

#### <JAICOH 学術大会に参加しての感想>

歯科医療の国際活動の情報発信共有の場として大切な役割を果たしていると思います。最近特に若い学生の参加が目立ち、かつては歯科医師としての将来像が、開業や研究者学者としての道に限られていたように感じますが、海外特にアジアの中での日本の役割といったイメージで国際協力を積極的に参加しようとする若い年齢からの考え方と姿勢が頼もしくも思われます。今年は発足20周年の節目の年となっており、7月19日(日)に東京御茶ノ水にて行われる予定です。実行委員の一人として今まで支えて頂いた方々への感謝と、JAICOHの存在をより世の中にアピールすべき記念事業として成功できればと祈念しています。

海外での国際協力に参加される方々には共通した社会に対する思いや人に対する優しさがいつも感じられます。この自由で束縛の無い、しかしながら共鳴し合う感覚を持った人たちの集まる場は、本当に今後も自然な形で広がっていくと良いのではと期待しています。

#### <プロフィール>小原真和(娘2人の4人家族)

1958年 福岡生まれ 1982年 九州歯科大学卒 1985年 品川区にて開業ネパール歯科医療協力隊遠征に夏冬合わせ7回参加

## 20周年を迎えたネパールでの活動を評価する

ネパール歯科医療協力会 中村修一

ネパールにおける国際歯科保健医療協力は1989年に開始し今年で20年を迎える。プロジェクトは歯科診療と歯科学術調査から始め、多くの変遷を経て自立型歯科保健開発に発展した。

活動はネパール内の19箇所のフィールドで実施したが、拠点となるフィールドはテチャー村を含むラリトプル郡の8つの村である。

これまでに実施したプロジェクトは、1.歯科診療、2.学校歯科保健、3.フッ素洗口、4.12歳児の検診充填、5.成人歯科保健、6.口腔保健専門家養成、7.歯の健康大会、8.母子保健、母子歯科保健、9.巡回歯科保健、10.栄養指導、砂糖の摂取指導、11.調査（歯科疾患罹患調査、生活実態調査、保健行動調査、咀嚼能力調査、農耕調査、生活用水分析調査、村人による評価調査）12.トイレプロジェクト、13.出版活動（口腔保健テキストブック、母子手帳）、13.歯の健康大会、14.ヘルスプロモーション委員会の設立、15.地域歯科保健開発、16.日本でのネパール人研修事業などである。これらのプロジェクトは全部が成功したわけではなく、成人歯科保健と巡回歯科保健とシュガーコントロールは休止、トイレプロジェクトは失敗であった。残りのプロジェクトは現在進行中である。

活動開始から今日まで事業は4つのステージを経由した。第1は歯科診療と調査ステージ、第2はヘルスケア充実ステージ、第3は口腔保健専門家の養成ステージ、第4は地域歯科保健開発ステージである。

これらのプロジェクトは大きく3つの変容を経て今日の地域歯科保健開発ステージに以降しつつある。まず活動内容はメディカルケアからヘルスケアに変容し、口腔保健専門家の養成を実施した結果、活動の主体が日本人からネパール人に変容し、活動の対象が個人から学校やマザーボランティアグループなど集団を経て地域に変容した。

その結果、14,331人に歯科診療を76,814人にヘルスケアを展開した。合計91,145人を数える。事業に参画した日本人隊員は延べ607人である。

隊員の職業は歯科医師46.4%、歯科衛生士19.5%、学生12.7%、研究者11.8%、看護師・保健師3.4%、医師0.4%、その他5.7%である。歯科医師の出身や所属大学は23歯学部で歯科学際的参画を得たと言える。20年目を迎えたネパールでの事業はメディカルケアからヘルスケアを経て地域歯科保健開発に進展した。継続の源は延べ607人の隊員の「人の和」につきる。



<学術大会に参加しての感想>

参加者も発表者も益々盛況になり慶賀に存じます。各団体の国際協力の内容も診療中心の活動からヘルスケアを導入した活動に移行しつつあり感慨深いものを感じました。また、女性と学生諸君の活動が活発になりJAICOHの将来は明るいと思います。

<プロフィール>中村修一

九州歯科大学国際交流・国際協力担当教授。ネパール歯科医療協力会理事長

今年は JAICOH 20 周年節目の年です。  
記念式典を行いますのでどうか皆様ふるってご参加ください！

■ 歯科保健医療国際協力協議会 (JAICOH) 20 周年記念式典事業プログラム

1. 「学生部会シンポジウム」

2009 年 7 月 18 日 (土) 15:00-17:00  
(国立オリンピック記念青少年総合センター (予定))

2. 「20 周年記念学術集会・式典・講演・祝賀会」

2009 年 7 月 19 日 (日)

学術集会

10:00-13:00 ポスターセッション、指定演題 (各 10 分)

13:00-15:00 JAICOH 年次総会

式典

15:00-15:30 記念式典

記念講演

15:30-17:00

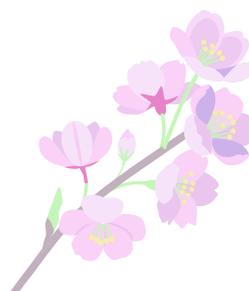
国際保健医療協力における歯科保健・口腔保健の役割 (深井穂博会長)

国際保健の動向と歯科保健への期待 (日本国際保健医療学会理事長 (予定))

記念祝賀会

17:30-20:00

会場：東京医科歯科大学



編集後記

新年を迎えたと思ったらもう3月です。今冬は暖かかったですね。桜の開花は早そうです。さて学術大会特集号いかがでしたか？今号は編集が遅くなり申し訳ありませんでした。出来上がり寸前にパソコンが壊れてしまい慌てて買い換えたり、編集した原稿を消してしまったりとアクシデント続きでした。たまたまバックアップしていて助かりました。バックアップの重要性に気付いた一件でした。皆様も気をつけてくださいね！ 榎崎